

当社は「陸・海・空」の幅広い分野に製品を提供する鍛造業界のリーディングカンパニーである
高い技術力と自社一貫生産により高品質を実現しており、地域貢献の目線も非常に強い

近江鍛工とは

- 滋賀県に本社工場を置く、鉄鋼及び非鉄金属を用いた**鍛造業のリーディングカンパニー**
- 自動車・新幹線・建設機械・石油掘削・船舶・航空機などの分野が顧客対象であり、**国内外の「陸・海・空」全領域に貢献**
- **2017年に「地域未来牽引企業」に認定、21年に「令和3年度ふるさと企業大賞（総務大臣賞）」を受賞。**地域からの積極雇用にも注力

当社の製品、ビジネスフィールド

- ローリング鍛造（金属をリング状に変形させる加工技術）技術と自社一貫生産体制により、**大小さまざまな高品質製品を製造**
- 国内外の様々な大手メーカーの認定工場であり、**新幹線の車両用軸受け製品では7割のシェア**を有する

ローリング鍛造品のイメージ



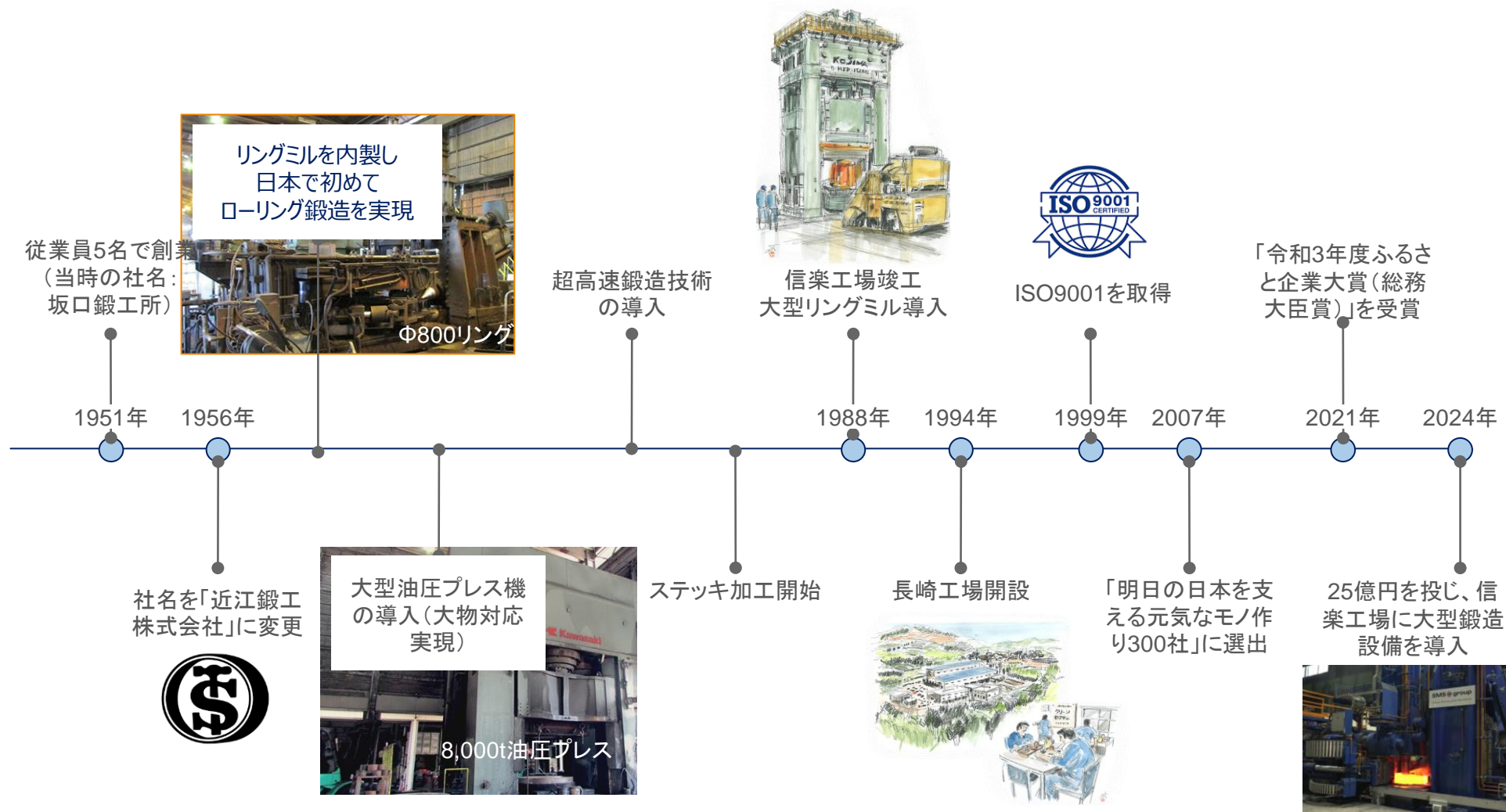
（出所）当社HP

代表的なビジネスフィールド

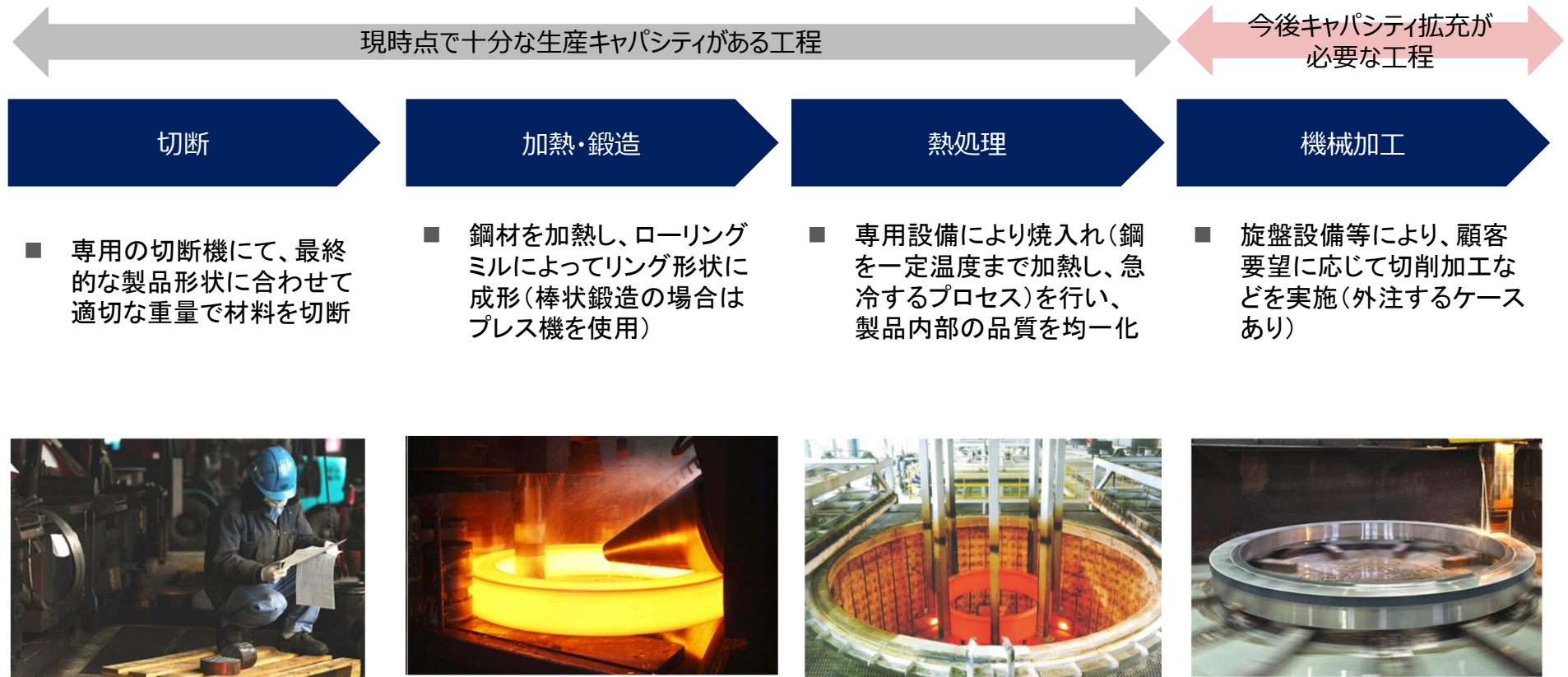


当社は製造設備の内製化により、日本で初めてローリング鍛造製品の製造に成功した以降も60年近くにわたり大規模投資を繰り返し、時流に即した製品を製造し続けている

近江鍛工の沿革



ローリング鍛造とは回転するロールを用いて加熱した金属材料を塑性変形させ、顧客が所望される形状に成形する加工方法。本補助事業では鍛造加工後の機械加工工程キャパシティ拡充を目指している



1. 長期成長ビジョン

主要事業分野における鍛造＋切削加工品需要の高まりに応えるため、補助事業を通じ切削加工能力と生産性を向上させ、事業ポートフォリオの盤石化により売上高300億円を達成する

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

【ビジョン】

- 「働きがいのある100年企業」を目指し、基本方針として以下の4つを掲げ、時流に即した挑戦を続けることで鍛造業界のリーディングカンパニーであり続ける

1. KEEP SPEEDY 「スピード感を持って」
2. KEEP SAFETY 「安全に、そして正確に」
3. KEEP CHALLENGE 「チャレンジ精神を忘れず」
4. KEEP CLEAN 「環境への拘り」

【ビジネスモデル】

- 成長領域の事業基盤を強化し、ローリング鍛造品のサプライヤーとして持続可能な事業ポートフォリオの構築を目指す
 - 主要事業であるベアリング部門・建設機械部門・エネルギー部門の成長セグメント向け製品および、成長産業であるオイル&ガス部門全体の鍛造＋切削加工品生産能力を強化
 - 今後の需要が特に確度高く見込める建築資材については新規事業として独立させ、将来の主要収益製品を創出する

会社全体の売上成長目標（2024→30年）

- 全社売上高 156億円→300億円
- 全社売上高成長率 11.5%/年
- 売上高増加額 +144億円

会社全体の賃上げ目標

- 4.9%/年（直近事業年度～基準年度）
- 従業員：5.4%/年、役員：5.0%/年（基準年度～事業化報告3年目）

外発的動機

■ 高精度鍛造＋切削加工品の短納期需要激増

- 当社主要分野である建設機械、エネルギー、直近の引き合いが強い石油掘削領域などから、高精度鍛造に加えて切削加工まで施した製品の短納期要望が激化
- 短納期での切削加工品納品に向け、製造リードタイムの短縮及び加工キャパシティの拡充が必要

■ 海外鍛造メーカーのシェア拡大

- 安価な鍛造品を大量供給する海外企業との競争が激化
- ローリング鍛造業のパイオニアとして当社が培った高精度鍛造技術に加え、切削加工済み製品の強化により差異化を図る想定

内発的動機

■ 切削加工工程のキャパシティ拡充

- 需要に見合った供給能力を確保するため、外注先と提携しつつ、切削加工の内製化能力を向上させる必要あり
- 昨年度に総計25億円を投じ、信楽工場の鍛造工程生産能力を大幅に増強しており、出荷能力は当社の切削加工能力に比例する状態

■ 本社工場の生産性向上

- 切削工程が複数箇所に分散している本社工場を新築し、加工機能を集約することで工程間リードタイムを大幅に削減する想定
- 製造キャパシティの拡充に伴い、製品を劣化させずに保管可能な製品置場の拡充も必要
- 従業員から自動積込ロボット導入の要望も高まっており、省力化の観点も踏まえた生産性の向上が必要と判断

2.補助事業の概要

本社工場の増改築及び国内全拠点の設備投資により、鍛造＋切削加工品の生産能力を1.8倍に拡張、加えて労働生産性を2.2倍に向上させることで、顧客ニーズに対応した高付加価値鍛造品を増産する

補助事業の
背景・目的

- 当社はローリング鍛造のリーディングカンパニーとして高品質な鍛造品を製造しており、**安価な製品でシェアを拡大する海外メーカーとは高付加価値化戦略により差異化を目指す想定**
- レアメタル資源の掘削、天然ガス発電容量拡大、生成AI普及に伴う電力需要増などの影響で鍛造品の需要が伸び、**当社主要事業分野においても納期が短く高品質な鍛造＋切削加工品の引き合い増加。鍛造＋切削加工品の大量製造を実現するための製造キャパシティ拡充・効率化**が求められている

事業費
(補助額)

24億円
(5.9億円)

設備投資の
内容

- 投資内容の内訳
 - 本社工場
 - － 工場・倉庫新築工事 8.8億円
 - － 旋盤・切断機械等投資 6.4億円
 - 信楽・長崎工場
 - － 旋盤・切断機械等投資 9.8億円
- 投資内容詳細
 - **国内全拠点（本社、信楽、長崎工場）において、旋削設備の増強**により鍛造＋切削加工品の増産を実現（一日あたり加工製品数 2024年時点の2倍）
 - 本社工場に**2か所の旋盤工場とステッキ工場の機能を集約した新工場を建設し、自動積込ロボットを導入**することで年間生産能力を1.8倍に向上
 - **製品検査・保管場として倉庫を新築し、製品の保管能力を拡張**



目標値

項目	2027年度 (基準年度)	2030年度 (基準年度＋3年後)
労働生産性 (単位：万円/人)	1,571	2,577 (年平均上昇率＋17.9%)
従業員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	780	915 (年平均上昇率＋5.4%)
役員1人あたり給与支給総額 (単位：万円/人)	4,300	4,971 (年平均上昇率＋5.0%)
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	270	273 (年平均上昇率＋0.4%)